

代表者名	菊池 勇咲	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】(20年度当初) (千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0
市町村	3	25,000	10.0
その他	15	125,000	50.0
計	19	250,000	100.0

【事業】

①主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
酒類、食料品、土産物等の販売
上記各号に付帯する一切の業務

②事業実績 (人)

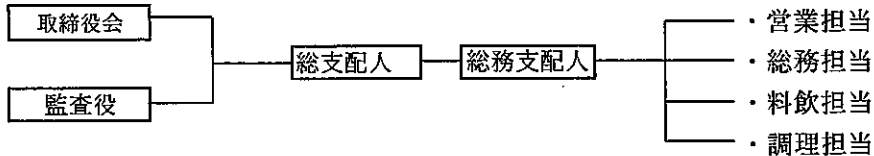
事業名等	17年度	18年度	19年度
宿泊客	19,222	18,111	17,722

③19年度事業概要及び20年度事業計画・目標

前年同様、十和田湖周辺の観光は依然として停滞状態から抜けきらず厳しい環境が続きました。このような状況下で集客の見込める団体・募集商品の販売を強化。またJTB首都圏主要支店のヘルプを実施。結果対前期団体客313名増募集商品854名増。個人客▲1556名。利用客合計17,722名と対前期▲389名の減となった。20年度は利用人員目標19,130名を設定、個人客の大幅増と、募集商品の増を図る。

【組織】

①運営機構



②役員数 (H20.7.1現在) (人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	8	1
内、県退職者		
内、県職員	1	
計	9	1
内、県関係者	1	0

③職員数 (H20.4.1現在) (人)

正職員	10	正職員平均年齢	29.3	正職員平均勤続年数	2.6
内、県退職者					
内、県職員	1				
臨時・嘱託					
内、県退職者					
計	11				3,850千円
内、県関係者	0				

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	55歳
平均役員報酬額	11,400千円/年

【財務】

①損益状況(19年度) (千円)

	金額
経常収入 A	333,383
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	333,383
運用益収入	
その他	
経常支出 B	372,328
人件費	117,395
その他	254,933
経常損益 C=A-B	△ 38,945
経常外収入	100
経常外支出・諸税	302
当期損益	△ 39,147

②財務状況(19年度末) (千円、%)

	金額	構成比
流動資産	128,895	90.5
固定資産	13,546	9.5
資産計	142,441	100.0
流動負債	9,528	6.7
短期借入金	0	0.0
固定負債	0	0.0
長期借入金	0	0.0
引当金等	0	0.0
負債計	9,528	6.7
資本金	250,000	175.5
剰余金	△ 117,087	△ 82.2
資本計	132,913	93.3
負債・資本計	142,441	100.0

県の損失補償額	0	県の債務保証額	0
---------	---	---------	---

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	0	0	0.0%

【県の財政支出】 (千円)

	17年度	18年度	19年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	17年度	18年度	19年度	17-18増減	18-19増減
健全性	自己資本比率	%	86.04	94.12	93.31	8.07	▲ 0.81
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	1,090.19	1,573.82	1,352.80	483.63	▲ 221.02
収益性	剰余金 (▲欠損金)	千円	▲ 81,484	▲ 77,940	▲ 117,087	3,544	▲ 39,147
	経常利益率	%	3.80	1.12	▲ 11.68	▲ 2.68	▲ 12.80
	総資本利益率	%	7.06	2.10	▲ 27.34	▲ 4.96	▲ 29.44
発展性	経常収入額	千円	363,756	341,777	333,383	▲ 21,979	▲ 8,394
効率性	総資本回転率		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	職員1人当たり経常収入	千円	12,125	24,413	27,782	12,287	3,369
	人件費比率	%	32.21	34.12	35.21	1.91	1.09

2 経営目標の達成状況

経営目標			17年度	18年度	19年度	20年度
経営改善指標	経常利益額 (千円)	目標	20,000	20,000	20,000	20,000
		実績	13,825	3,834	▲ 38,945	
事業成果指標	売上高経常利益率 (%)	目標	5.7	5.7	5.7	5.7
		実績	3.8	1.1	▲ 11.7	
事業成果指標	売上高 (千円)	目標	353,000	353,000	353,000	353,000
		実績	363,722	341,695	333,383	
事業成果指標	個人客宿泊人数 (人)	目標	14,600	14,600	14,600	14,600
		実績	15,234	14,500	12,943	
	顧客満足度指数	目標	80	83	87	86
		実績	81	86	85	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

第11期における当期利益は▲39百万と赤字計上。前年は3.5百万黒字計上であったが十和田湖地区への客数入込数は減少。特に個人客の利用が対前期▲1,557名。集客の見込める団体・募集商品はそれぞれ313名・854名と増加したが個人客の減まで至らなかった。今後は個人客の商品強化を図り各AGTへの強化を実施。引き続き募集商品の好調を維持させる。今後の課題は、CS向上を目指しリピーター客の獲得増を図り売上目標達成を目指す。また修繕については優先順位を決め、確かな維持投資を投資を実行する。

4 総合評価 (計算書類等の資料及びヒアリングによる評価)

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
<p>・団体・募集の宿泊客を増やすことができたが、個人客が1,557名減少したため、売上高は前期比8百万円の減少となった。顧客サービス向上のため、材料費、修繕費、消耗品費等の増額を方針としたが、結果として費用全体で27百万円の予算超過となり、収入が目標を15百万円下回ったため、39百万円の損失となった。</p> <p>・平成20年度の収支予算は、個人客1,000名以上、団体・募集400名以上の増員が採算ラインの前提となっており、営業成績は厳しい結果となる懸念がある。</p>	